

新たに奨励品種に採用された水稻品種「あきさかり」の特性

作物・特作部門 西原昇吾

新たに本県の水稻奨励品種^{*1)}に採用された「あきさかり」は、「はえぬき」と比較して、同程度の稈長で栽培しやすく、「多収」、「炊飯米の外観が優れる」といった特長があります。

1 はじめに

本県では、平成15年に早生水稻の奨励品種として「はえぬき」を採用し、生産を奨励してきました。しかしながら、近年夏期の高温により、収量や充実不足による品質の低下がみられることから、令和2年2月に「はえぬき」に代わる奨励品種として、収量が多く、食味の良い「あきさかり」を採用しました。そこで、本県における「あきさかり」の品種特性について紹介します。

2 来歴

平成9年に福井県農業試験場において、良質の「北陸159号（のちの「あわみのり）」を母、極良食味で多収の「越南173号」を父として人工交配により育成されました。平成20年に福井県の奨励品種に採用され、平成21年に品種登録されました。

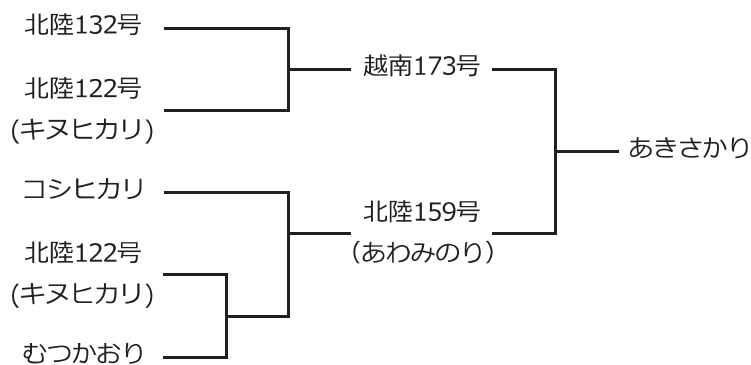


図1 あきさかりの来歴



写真 成熟期の姿（立毛）

*1)奨励品種とは「地域に普及すべき優良な品種」のことです。昭和27年に制定された「主要農作物種子法」では、国が各都道府県に対して奨励品種の選定を義務づけていましたが、この法律が平成30年4月に廃止されたことから、本県では、独自のこれに代わる実施要領を策定し、これに基づいて、奨励品種決定のための調査を継続しています。

3 「あきさかり」の特性（「はえぬき」と比較して）

1) 栽培特性

- ・ 出穂期は3日遅く、成熟期は4日遅い。
- ・ 稈長はやや短く、穂長は短い。
- ・ 穂数はやや多く、**収量は1割程度多い**。
- ・ 耐倒伏性、耐病性は同等。

表1 栽培特性

品種名	出穂期	成熟期	穂数(本/m)	倒伏程度	葉いもち	穂いもち	紋枯病
あきさかり	8月14日	9月20日	402	無	微	無	無
はえぬき	8月11日	9月16日	389	無	微	無	無

注1) 平成29年～令和元年までの3カ年平均値。

注2) 倒伏程度、病害の発病程度は無、微、少、中、多、甚の6段階で評価。

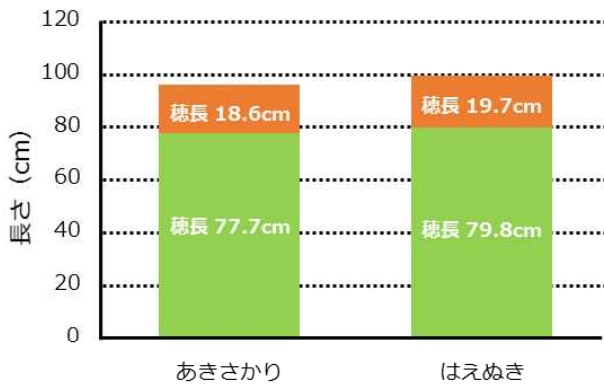


図2 稈長と穂長



図3 10aあたり収量

2) 品質特性

- ・ 整粒歩合はやや高い。
- ・ 未熟粒、胴割れ粒の発生はやや少ない。

表2 品質特性

品種名	外観品質	整粒率(%)	未熟粒率(%)	胴割粒率(%)
あきさかり	2等	67.7	29.2	1.1
はえぬき	2等	65.5	30.2	1.6

注1) 平成29年～令和元年までの3カ年平均値。

注2) 外観品質は1等、2等、3等、規格外の4段階で評価。

3) 食味特性

- ・米の食味を評価した各項目において「はえぬき」と同等以上で、特に、**炊飯米の外観に優れる。**

表3 食味特性

品種名	SHON値	粘り値	タンパク質含有率	
			玄米	白米
あきさかり	0.84	0.43	6.6	5.2
はえぬき	0.80	0.26	7.2	5.9

一般的に、この値が低いほど良食味とされています。

注1) 平成29年～令和元年までの3カ年平均値。

注2) SHON値は大きいほど良食味であることを示し、粘り値は大きいほど粘りが強いことを示す。

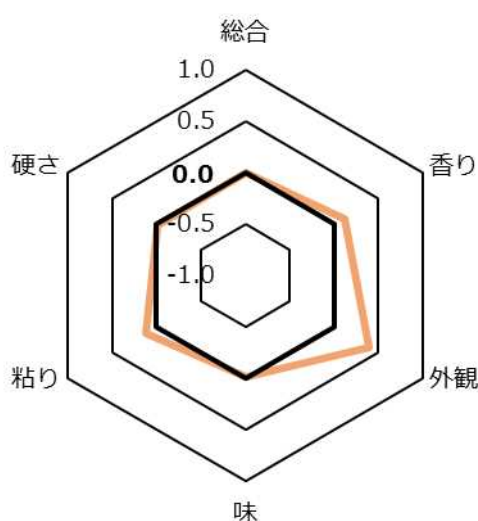


図4 食味官能試験結果

注) 比較する品種である「はえぬき」の値を基準(0)として、-3 ~ +3の間で評価。「香り」「味」「外観」「総合」は値が大きいほど良く、「粘り」は値が大きいほど粘りが強く、「硬さ」は値が大きいほど硬いことを示す。

4 栽培にあたって気をつける点

- ①穂数が多く、**紋枯病にかかりやすい**ので、適正防除を行いましょう。
- ②登熟期に高温になると、玄米の外観品質が低下するので、**早植えを避け、適期移植(5月中旬から6月上旬)**に努めましょう。